

## 開設して2年が経ち…

### 2 ぬくぬくハウス みんなでぬくぬく

18番目の地域共生のいえとして開設してから早いもので丸2年となるが、立ち上げた私たちにとっては開設前の1年余の様々な挑戦が力をつけてくれたように思える。家をひらくに当たり、当面の活動費を作ろうとガレッジセールを2回行った。ボランティアの方の参加もあり結末が生まれ、売上金はチラシ作りや講演会の会場費などに大いに役立った。しかし活動費が潤沢にあるわけもなく、各メンバーが企画を立て資料を用意し講師になりチラシをポスティングしている。認知症に関する4回の勉強会や相続の勉強会では支援して下さる理解者も出てくださり、不安だった参加人数も予想を上回る盛況であった。その後、日本の行事に特化して活動していこうと、餅つき、おひな様、5



月飾り、流しそうめんなどを企画し、徐々に地域に認知されていった。昨年からは「まぜっこ食堂」(子ども食堂)を月2回開催し、毎回40名を超える親子でにぎわう。近隣の保育園や福祉作業所、様々な会の方々との交流、そしてメンバーが立ち上げたぬくぬくハウスのサテライトと夢はひろがっている。(温井克子)

**DATA**  
所在地 世田谷区玉川1-2-3 \*二子玉川駅より徒歩約8分  
連絡先 03-3707-0037  
活動日 まぜっこ食堂: 第2・4金曜日 17:30-19:30 (予約制)  
ぬくぬくカフェ: 第1・3金曜日 13:30-17:30

# 地域共生のいえがわら版

ふれる・つながる・ひろがる

第10号

発行: 平成29年9月29日

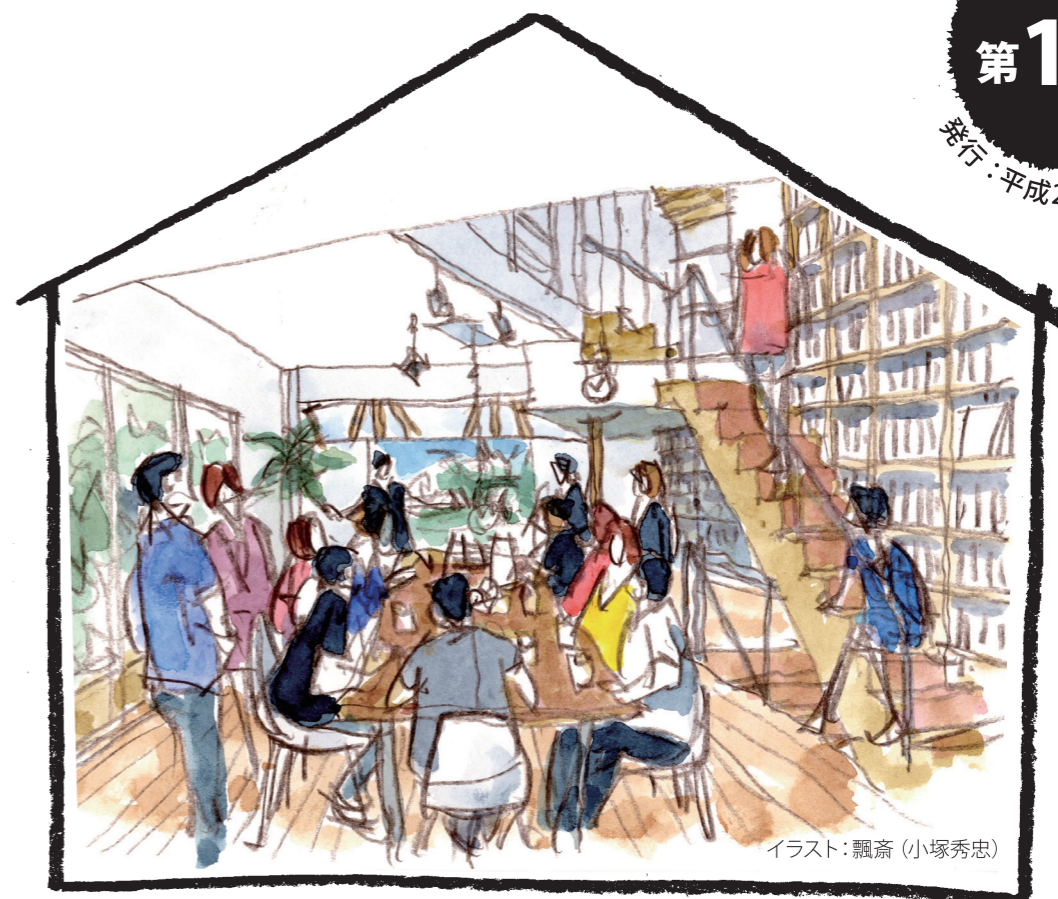
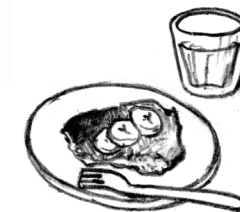


イラスト: 飄斎 (小塚秀忠)

## KYODO HOUSE



自然と、友人と「協働」して建てた近藤ヒデノリさんの「KYODO HOUSE」(きょうどうはうす)。

木の箱のような建物のリビングや地下室を開放している時間がある。味噌作りのワークショップや人形劇を開催したり。

人ともまちとも風通しよく、アートな暮らしをゆるやかにひらいている21ヵ所目の新しい「地域共生のいえ」だ。

## 地域共生のいえ 掲示板

### 3 あかねこうぼう

いわば、地域の笑顔工房です

左時枝とあかねこうぼう大嶋夕子二人展

11/1(水)~5(日) 10:00-17:00  
(最終日は16:00まで)

楽しいバッグとさまざまな色の織りの世界をご紹介します。

左時枝のトークショー、よもやま話  
11/3(金・祝) 13:00~ \*予約制

■DATA

所在地 世田谷区祖師谷 4-7-18  
\*祖師ヶ谷大蔵駅より徒歩約10分  
連絡先 03-3482-1818

あかねこうぼうのコレクション  
~色彩豊かな民族衣装と古代マヤの織り~

12/20(水)~24(日)  
10:00-18:00(最終日は16:00まで)  
会場: 世田谷美術館分館 清川泰次郎記念ギャラリー

“めぐみ”いっぱい! 里山の秋  
10月下旬から12月下旬  
ビジターセンター(世田谷区成城 4-29-1)  
クラフト作品協力: あかねこうぼう

### 4 諧林招

忙しい日常を離れて、のんびりゆっくり

なごみ寄席

11/17(金) 14:00-16:00 (13:00開場)  
出演: 遊興亭福し満/木戸銭: 1,300円

■DATA

所在地 世田谷区船橋 3-12-3  
\*千歳船橋駅より徒歩約9分  
連絡先 03-6411-3774

### 5 アリスの家

ほっと一息、おしゃべりカフェ

熟年シングル女性の集い(第1回)  
10/27(金) 14:00~ \*予約制

人生いつ何が起きるか分かりません。重篤な病気、事故 etc...  
ひとりでは対応できないことも、互いに助け合う仲間づくりを一緒にしませんか。  
お茶代: 200円

■DATA

所在地 世田谷区池尻 3丁目  
\*三宿バス停すぐ  
連絡先 090-8479-5460(山崎)

### 6 在林館

木漏れ日のギャラリー

【開館5周年記念展】  
在林館を彩る人々の自画像展

11/16(木)まで  
(木曜日の14:00-18:00開館)

在林館の活動に参加された人々の自画像を中心に5年間を振り返ります。  
\*5周年を祝う会を10/15(日) 14:00-18:00に開催します。お好きな時間にお越しください。

■DATA

所在地 世田谷区羽根木 2-34-4  
\*東松原駅より徒歩約4分  
連絡先 03-3321-0530

発行: 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり  
〒155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール  
TEL 03-6407-3313  
http://www.setagayatm.or.jp



「地域共生のいえ」とは、オーナー自らの意思により家・建物を地域の公益的かつ営利を目的としないまちづくり活動の場として地域に役立てる取り組みです。



# 暮らしと文化を共に育てていく KYODO HOUSE

## 1 KYODO HOUSE 自然と、地域と、アートと共生する



### 住まい方をデザインするいえに住む

近藤さんのいえは小田急線経堂駅から10分ほど歩いた住宅街の中にある。

経堂五丁目特別保護区の森をバックに、木の板を斜めに貼った箱のような建物が見えてくる。ここが近藤さんの自宅であり、地域共生のいえ「KYODO HOUSE」だ。

3年前に建てたというこの家は、彫刻家である名和晃平氏や、環境エンジニア、日本の森林再生に取り組んでいる友人の協力のもと、皆でつくられた。“エアコンのいらぬ家”というコンセプトで、冬は太陽光で温められた暖気が家全体に行き渡り、夏は昔ながらの庇と簾で太陽光をシャットアウト。各所に風の抜ける窓や穴、地下から冷たい空気を吸い上げる循環パイプで、エアコンなしでも涼しく過ごせるようになっている。訪れた日は暑い日だったが中に入っただけ涼しく感じる。訪れた日は暑い日だったが中に入っただけ涼しい風が抜けていくのが感じられた。

「建築家のデザインでオシャレにできてはいますが、あんまりお金は使わずにできているので、これから家を建てようとしている人や多くの人に、エアコンがなくても暮らせるんだと知ってもらいたい。そんな願いもありまして」と、近藤さんは気さくな笑顔で答えてくれる。

### 彫刻家だった曾祖父の記憶が眠る場で

近藤さんは、クリエイティブディレクター・編集者であり、広告会社に勤務している。現代アートを学ぶためニューヨークの大学院に留学していた時期もある。そしてここは彫刻家だった曾祖父のアトリエがあった場所。近藤さんはおばあさんから聞いた話をよく覚えているという。

「常にいろんな人が出入りして、大きな酒樽をみんなが割って呑んだとか、この場所がにぎやかだった時の記憶を話してくれました」

近藤さん自身も海外生活や旅などで他人がいる環境を不自然とは思わず育ったこともあり、今もシェアハウスのように間借りしている住人がいる。「なんかね、最近の住宅ってプライバシーを重視しすぎちゃっている感じでしょうか。内に閉じすぎた暮らし方がずっと気になっていました。近所に知り合いがいっぱいいて、見守ってくれた方が安全だったりする。地域共生のいえは、家族にとっても良い制度だなって」

### 「個」のアートから「皆」でつくるアートへ

ご近所とも仲が良く、一緒にバーベキューを楽しんだりすることもあるという。ここでのイベントは多種多様。味噌作りのワークショップやダンスワー



クショップ、長野県飯田市の人形劇など。小学校に通う娘さんと奥様、そして間借りしている同居人との日々に、時々まちにひらく時間がほどよくミックスされている。

近藤さんの気負いのない話を聞いていると、ずっと昔からこういった暮らしを楽しんでいたような錯覚を覚えるが、以前は現代アートを追い求め、自分の個性を主張する、ということを探求していた時期

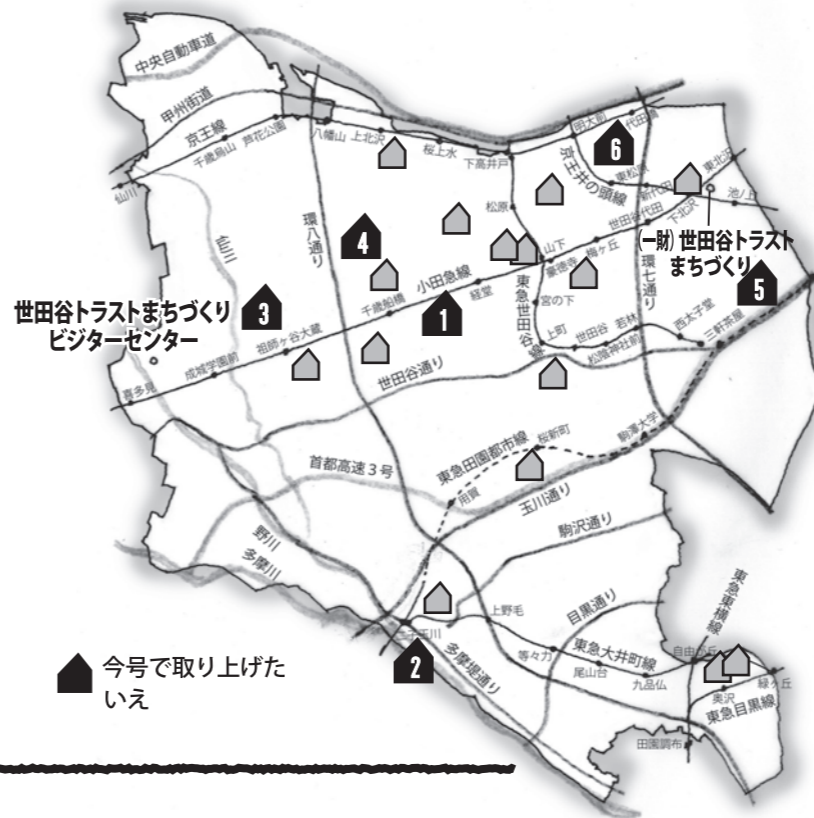
があったそうだ。だがやがて、「自分が」前に出ることより「みんなと」一緒に楽しむことに価値を感じるようになったという。それは時代の流れでもあったのかもしれない。パーマカルチャー（持続可能な関係性のデザイン）という考え方も触発を受け、今の住まい方があるという。

「KYODO HOUSE」の憲章文の最後には、「この家は常に『未完成』です。みなさまと『協働』で、次代につなぐ『暮らしと文化』を育てていければ幸いです」とある。

都市のちいさなまち、経堂に暮らし、自然とも、近隣とも、そして場に眠る記憶とも共生し、協働している近藤さんのライフスタイルは、実に「アート」だと感じられた。「未完成」な「KYODO HOUSE」の今後が楽しみだ。



**DATA**  
所在地 経堂5丁目  
\*経堂駅より徒歩約10分  
連絡先 hidekon@gmail.com  
活動日 不定期 \*Facebook「KYODO HOUSEコミュニティー」をご覧ください



## 「トラまち」から

### 新たな「かわら版」をお届けします

平成25年度に創刊した「かわら版」はついに10号を迎えました。今号から内容・デザインを見直し、新たな「かわら版」としてお届けします。リニューアルに際して一番に心掛けたのは「読みやすさ」です。前回まではいわゆる「瓦版」をモチーフにしていましたが、より文字を大きくし、ゆったりとした文字間で作成してみました。

「かわら版」を目にするのは初めての方もいらっしゃるかと思いますので、「地域共生のいえ」がどのような制度かご説明します。「共生のいえ」は、建物のオーナーが自宅や空き家を地域へ開放して行うまちづくり活動です。当財団が、地域へ貢献する住まいのあり方を検討し、平成16年度に「地域共生のいえづくり支援事業」を開始しました。今号でご紹介した「KYODO HOUSE」で21カ所とな



譜林招(船橋3)

り、オーナーの想いに応じた多様な取り組みが広がっています。この取り組みをより多くの方々に知ってもらおうと「かわら版」を発行しました。「かわら版」を機に共生のいえを知り、足を運んでいただければ嬉しいです。活動や制度についてもっと詳しく知りたい方、ご自身でも共生のいえを始めてみたい方は当財団までご連絡ください。「かわら版」へのご意見・ご感想もお待ちしております。(山田)